

高齢者の介護予防策の充実、強化を！



無党派（生き生き） 村松 俊武

(村松) 報道によると、国は要支援1、2を市町村に移管する話があった。高齢者の介護予防策について質問した。今後市はどのように介護予防策を強化したらいいか。

(福祉保健部長) 国の諮問機関の介護保険部会の中では、訪問介護と通所介護のみ市に移行する。27年から3カ年を経過措置に、30年4月から移行する形。

(村松) 市への移管になると、新しい事業所が必要になるのではないか。

(部長) 今、要支援1、2の方が約1千人、要介護1～5の方が約3千2百人、認定を受けている。

(村松) 要支援よりもう少し手前の人たちの実態と対策を考える必要がある。市としていろいろな団体の介護予防のとりくみを、どの程度把握して市民へ情報を伝えていくのが、今後大切な市の事業になると考える。情報を市民がいつでも利用できる状態をつくっておくことだ。市からの発信は、市民にとって価値があり、重みがある。

(部長) 情報収集することは必要なことだ。必要な方にお知らせすることは大切だ。

(村松) 介護予防は、市として財政問題であり先行投資的な意味をもつ。その結果、予算の削減と市民の健康につながる。市長からも考え方をお聞きしたい。

(市長) 介護にならない状態は、重要だ。介護予防の支援は、積極的に対応、強力に進めていきたい。<子どもたちの健全育成も質問>

自治会・町内会未加入世帯の対応を考えて



政策市民会議国分寺 及川 妙子

1. 西国分寺駅北口のタクシー待機所について2台では少ないので他に待機場所はないのか？→いろいろ検討したが、現状では難しい。

2. 自治会・町内会について

災害時の地区本部の設置について共同住宅の管理組合には呼びかけているのか？→データがないので呼びかけていない。これから呼びかける。自治会・町内会の加入率は41%であるのに情報や呼びかけが集中して偏っている。残りの59%の方たちにも目をむけていく必要がある。

3. 学区の見直しについて

学区の弾力的運用で小学校の児童数が変動している。今後の予想は？→今後5年間のシミュレーションでは平成27年度まではOKだが28年度に九小で1クラス足りなくなる。弾力的運用の見直しかチームティーチングで対応していく。

4. 学校ブログの活用について

10月16日の臨時休校の連絡はブログで発信したか？→9校が発信した。6校発信していなかったことは遺憾だった。朝6時に暴風雨警報がでていたら自宅待機、8時にまだ出ていたら休校という判断基準も改正する方向で検討する。

5. 先生の勤務年数について

市内に10年以上いる先生が36人もいる。良い面もあるが、一般論として長くなるとそれなりの

弊害が出てくるのは否めない。複数の保護者から指摘されているので受けとめて欲しい。

6. 国分寺市の歌について

「野川のほとり～緑萌え♪」という国分寺市の歌をもっとPRして。→HPで聞けます。

市民サービス向上に真摯に向き合うよう求む



無党派（みんなの党） おざわ 脩

①ぶんバスについて

質問：ぶんバスルートの見直しと並行して現在の難解なルートマップの改定も考えるべき。国分寺市の名所や歴史の紹介、観光振興に役立つように、より価値のあるマップにするべき。

答弁：今後、わかりやすく有効なルートマップを作成するために工夫して参ります。

質問：ぶんバス事業の赤字収支を広告収入で補填するべく、ぶんバス関連の広告収入事業にもっと創意工夫するべき。バス停名のネーミングライツや車体の外側に広告スペースを設けるなどの工夫をしている他自治体の例もある。

国分寺市でもその様なことができるのでは？

答弁：ラッピングを初めとして検討はしたが受け入れていただける企業があるかどうか、ということもあり実現に至っていない。

意見：本気で取り組んでいただきたい。

②防災対策について

質問：震災時に避難所となる施設に職員が直ちに駆けつけられない状況も考えられる。地域住民でも開錠ができる仕組みが必要。強い揺れを感知すると開くキーボックスがあり、そのキーボックスを避難所施設等の外壁に設置している自治体の例もある。検討していただきたい。

答弁：他市の動向と合わせて研究致します。

③男女平等推進行動計画について

質問：本市においても男性自殺率が高く深刻である。男性特有の悩みに対する施策が無い。

答弁：今後については一定検討して、計画に反映していく必要があると認識しています。

既存事業の充実の鍵は市民参画と協働



国分寺・生活者ネットワーク 片畑 智子

問) トライルーム（適応指導教室）が、当事者の居場所になり得ているのか疑問がある。不登校支援は、市民や当事者団体など民間が主導して行われてきた。市民との協働や民間のスキルを活用するという観点もお考えいただきたい。

教育長) 配置している都の職員の継続が大きな課題となっている。今後、市の財源で運営をする時期は間違いなく来る。その際に民間の力を活用することも方法の一つであると考えている。

問) 親子ひろばは数々あるが、曜日や開設時間の偏り・空白エリアがある。また、妊婦の利用がほとんどない。市民や市民団体と連携を図りながら解決に向けた検討をしていただきたい。

子ども福祉部長) 円卓会議に情報提供し、協議をしながら、よりよい方向に持っていきたい。

問) 学童保育について、定員の1.5倍になっている三小エリアと、学校から離れた場所に設置されている四小エリアについて、学校や放課後子どもプランと連携をはかりながら改善を求める。

子ども福祉部長) 十分に協議していきたい。教育部長) 協議を進めていかなければと考える。

問) つくしんぼの支援対象を拡大し、今以上に保育園、幼稚園、小・中学校への支援を求める。子ども福祉部長) つくしんぼの再構築について検討している。早めに結果を出したい。

問) 利用しやすい公園・生きた公園にするための第一歩として、公園サポート事業実施公園について、住民の住民による住民のための公園に変えるしくみづくりをしていただきたい。

都市建設部長) 進めてまいりたい。

ぶんバス試験運行は市民との約束早期実現を



公明党 高橋 りょう子

(1)「登下校時の見守り安全対策」について

問) 昼間スクールゾーンの人通りが少ない地域などで不審者情報が寄せられる。帰宅時間に合わせ犬の散歩をしていただく「わんわんパトロール」を取り入れては如何か。自治会のない地域の近隣友好にもつながるのではないか。

市) 春に狂犬病の予防接種を行う。その際チラシなどで飼い主に協力依頼の声掛けを検討する。

(2)ぶんバス北町ルート試験運行早期実施を

問) 25年9月走行と発表し市民説明もしながら未実施。近隣市では更なる新規ルートをも開始した。市民との約束を守り慎重に走行の実現を。

市) 車道や外側線の狭幅で認可が下りず遅延した。交通管理者と協議し早期に運行開始する。

(3)障がい者の要望が詰まったヘルプカード災害はいつ起きるか判らない。作成配布を急げ。

市) 年度内には広く周知し配布する。

問) 障害者の害は法的には未だ漢字だが市報記事など障がいと平仮名表記に変える検討を。

市) 要望は来ていないが検討してみる。

(4)市制施行50周年記念の取り組み

問) ふるさと納税者に市の特産品を贈り市のPRと商業の活性、税収アップへの取り組みを。

市長) 市内商品還元で商業の活性など、50周年記念に良い提案。早速検討し是非取り組みたい。

問) 国分寺市の木や花は指定がある。姉妹都市佐渡市の鳥は朱鷺。市の鳥を決めてはどうか。

市長) 確かに指摘通り市の鳥の指定はない。50周年を記念し、本市も市民に募り何か決めたい。

その他) 図書館の相互利用など質問。

2月23日に「日曜議会」を開催します

議会を傍聴してみませんか

平成26年第1回定例会は、2月21日(金)から開会の予定です。また、平日に議会の傍聴に来られない市民の方に議会を傍聴していただけるよう2月23日(日)に本会議を開催し、初日に行われる市長の施政方針に対する各党派の代表質問を行います。

議会はどなたでも傍聴でき、審議に関連する資料も自由に閲覧できます。

ぜひこの機会に市議会を傍聴していただきますよう、多くの市民の皆様のご来場をお待ちしております。

※本会議は市役所第1庁舎3階議場、委員会は同委員会室で午前9時30分から開始予定です。